



YES 通信



〒819-1116 糸島市前原中央2-2-22波多江ビル2F 電話 321-4119 2019年5月号

資源のない国日本を痛感しました!

ゴールデンウィークに家内とフロリダ州のオーランドに行ってきました。ティズニールランドやユニバーサルスタジオ、ケネディー宇宙センター、シーワールド等があるアメリカ最大級のリゾートだけあって、かつてない大型連休にぶつけてみました。思い切ったものの移動に時間がかかることもあって、オーランドのほんの一部分しか見ることが出来ませんでした。私たちが観たのはティズニールランド2日間、そしてユニバーサルスタジオ、ケネディー宇宙センター各1日で残りはお買い物1日、移動になんと約4日かかるという旅行でした。

あと最低でも5日は欲しいと思う旅行だったのもっと若いうちに行きたかったというのが本音の旅行になりました。

帰りには飛行機が遅延して成田行きは飛行機に乗り遅れてしまい、周りの日本人の皆さんと一時パニックになる経験や、空港で仮眠しながら一夜を明かすという貴重な経験もさせていただきました。多くの方は旅行会社のバックツアーだったので代わりに便を手配できたみたいですが、旅慣れた方の中にはバラバラの航空会社でチケットを手配されていた方もいらしたのですが、その場合は代わりのチケットの手配はしてもらえないと話しておられました。少々高くても高いものにはそれなりの価値があるの

だと痛感しました。

話は本題に入りますがオーランドの昼間の気温は30℃を超える夏日だったのですが、行くところ行くところ冷房が効きすぎていてとにかく寒いのです。石油をすべて海外に依存している日本とは全く考え方が違つようです。

場所によっては外に出るとメカネが外気で曇るほどメガコンをつけているのですから驚きです。今回は万全の対策をと思い、カーティガンやインナーダウンを持参していたので、観光中はある程度無理に過すことが出来たのですが、さすがに帰りの空港では朝まで待たなければならなかったこともあり、眠れないくらいの寒さでした。完全にやばい状況だったので、嬉しいことに掃除のおじさんが毛布を持ってきてくれたので少し仮眠が出来ました。それでも寒くて風邪をひいてしまいました。外人さんの中にも寒そうにしている人がいましたが、そのような寒さの中でも半袖の人もいるから不思議です。

電気だけではなくトイレの紙もみんなほとんど使っています。日本人ならあと少し節約するのはといつも思います。

もったいないという言葉も英語には訳せないと思いましたが、やはり日本人は節約家が多いと思えます。

ただ、これを裏返してみるとやはり、外国は元来豊かなのだと感じました。石油資源は豊富だし、土地も広く人口も日本ほど過密ではないので本当にゆたかりとしたスペースがあり、駐車場も広いです。当然、農作物や肉類も豊富に取れるのです。

私たちの先祖様はよくもまあこんな豊かな国と戦ったものだ、正直悲しくなってしまうほどの差があります。だからこそ日本人は勤勉に働き頑張っ

て勉強してきたのです。私が子供の頃は、日本は資源のない国だから輸入したものに付加価値をつけて輸出することでしか飯が食えないと教わった記憶があります。だから勉強しないと行けないのだと……

最近ではあまり耳にしなくなってきたような気がしますが、この「日本には資源がない」ということはよく肝に命じておかなければいけないと思うのです。もし、このことを忘れて、日本人が無駄使いをして、付加価値を付ける努力を惜しんだら、日本なんてあつという間に廃れてしまつと思つのです。今の日本があるのは紛れもなく私たちの先輩方が資源のないハンデを克服し勉強して勉強して手に入れたものなのです。

肌感覚ですが、以前は外国に行くのが安いと感じていましたが最近では日本は安いと感じるようになってきました。それだけ日本がどんどん貧しくなってきた気がします。確実に先祖様が築き上げてきた貯金を食いつぶしている感じがします。気を引き締めて勤勉に勤め勉強する姿勢が重要だと思えます。

やる気相談室

令和

令和元年にして思ひこ

新しい元号令和が始まりました。塾の号令でも元

号に関する話題がこのと

ころ多かったのですが、そ

の中でとても印象に残った言葉がありました。これは、九州大学3年の女性講師が話した内容なのですが要約するとこのよう

な

話でした。「最初、令和という元号が発表された時に、意外性のある言葉だったので、最初はみんなピンと来なかった。しかし、何度も繰り返し令和に関連する話を聞くにつれて、次第にその背景や意味合いがわかるようになって、次第にじっくりと考えるようになってきた。さらに人に令和に関する話を話したり、また人から聞いたりするのとにより、いつの間にか令和という元号がみんな好きになってきた。これは、勉強も同じで最初はわからないことも何度も何度も

繰り返して勉強していたらわかるようになる、好きになっていくのではないかと。」と。この話を聞いてなかなかいい話だなあと感心していたら、先日、講演を聴きに行ったら執行草舟氏の「わからぬがよろしい」という言葉を思い出しました。執行氏に言わせると現代人はわからずわからうとするあまり、本当に良いものに取り組めなかったり、素晴らしい芸術に触れることを恐れたりしているとのこと。実際に私も美術館に行くと絵画を見てもわからない、ピンと来ない、という理由で足が遠のいてしまったり、古文や和歌、詩に関しても同様わからないという理由で避けていたります。これは、あまりにももったいないことではないか？と思うようになってきました。大の歴史嫌いだっただけが、歴史に触れていくことで、少しずつですが歴史に興味が出てきていますし、音楽や映画も楽しめるようになってきました。今年も元号も変わる新しい年なので、も

っといろいろなことに挑戦する年にしたいと考えています。

執行氏の話では、世の中すべてはエネルギーによって回転しているということです。素晴らしい芸術品や、書物にはそれを作った人の高いエネルギーが流れているので、そのエネルギーを感じ取る感性を磨くことが重要だそうです。その感性を磨くためにはそのような書物や芸術品に触れ続けることが大事なのだそうです。触れ続けることで令和のように少しずつわかってくる、好きになってきたりするのでしょう。

芸術や詩、古典には全く疎い私ですが触れ続けることで少しは向上していくのではないかと根拠のない自信というか覚悟のようなものが芽生えてきているような気がしています。

そのような意味では、元号が令和になっただけのも私にとって大いに意味のある事のように感じています。令和に親しみをもちつと同様に苦手な分野にも親しみをもちたいと考えています。

今年も元号も変わる新しい年なので、も

今年も元号も変わる新しい年なので、も

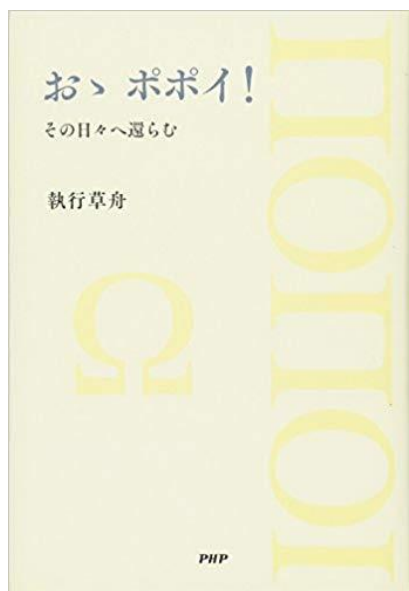
今年も元号も変わる新しい年なので、も

今年も元号も変わる新しい年なので、も

今年も元号も変わる新しい年なので、も

今年も元号も変わる新しい年なので、も

今年も元号も変わる新しい年なので、も



書籍紹介

お、ポポイ! その日々へ還らむ

執行 草舟 著

ほんわかした名前の本ですが、「ポポイ」とは「エーゲ海の明るさの中にある悲哀をあらわす古代ギリシアの感嘆詞」のことだそうです。この本は先日講演を聴いてきた執行草舟氏の本です。執行氏の講演会は九大医学部百年講堂大ホールであったのですが、関東や関西など遠方からのお越しの方が多く超満員でした。また、話の内容に大いに感動し、私の知人が言うには執行氏は歴史上の人物になるというほどで、私も多くの方の話を聞きましたがたぐいまれな知識とエネルギーを持った方なのです。この本には執行氏の生い立ちから今に至るまでを綴ってあります。読んでみるとその内容があまりにも凄く、そして深い、さらにドラマチックな内容なのです。読みだしたらつい引き込まれてしまいゴールデンウィークの旅行中に一気に読みました。読んでみて改めて執行氏の凄さはこの経験に裏打ちされたものなのだと納得してしまいました。しかも、その一つ一つに歴史上人物や流れとのつながりだけでなく音楽、美術、芸術等さまざまな出来事との関連が描かれていて、この本を1冊読むだけでいろいろな本や出来事に興味を持つことが出来るでしょう。私はこの本を読んで、読んでみたい本や聴きたい音楽等多くの目標を得ることが出来たので、今後時間をかけて本物に触れていく努力をしたいなあと思いました。本好きの方には是非読んで欲しいです。